
この扉の向こうへ。(お題)

さなぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この扉の向こうへ。(お題)

【コード】

N3506BA

【作者名】

ちなぎ

【あらすじ】

ブログお題より。サイトにも載せてあります。
恋愛もののもり。

(う……)

目の前には毎朝くぐる教室の扉。

見慣れたはずのそれが今、全く別のもののように思える。

「ふー……」

とりあえず息を吐いてみた。

だがそんなことをしたところで高鳴る胸がおさまるわけでもなく。

(う……どうしよう)

目の前では今だけ重い扉がその口を閉じている。

なんてことはない。いつものように窪みに手をかけて左に引けばいいだけだ。

(ふー……よし)

意を決して顔をあげる。

窪みに手をかけ、ゆっくり一回深呼吸する。

一息に扉を開けて一歩踏み出した。

大好きな彼が待っている、この扉の向こうへ。

サイドストーリー

(ふー……落ち着け落ち着け)

何度も手を組みなおしながら、チラリと扉へ目を向ける。
昨日寝ずに考えた言葉を何度も頭の中で反芻しながら、ただ彼女が
くるのを待つ。

ゆっくりと深呼吸しながら耳をそばだてているとパタパタと足音が
聞こえてきた。

(来た！)

チラリと扉を見ると、おそらく彼女のものであるう人影が扉の前に立っているのが見える。

意思とは裏腹に胸の高鳴りはどんどん大きくなっている。

「お、遅くなつてごめんね！」

勢いよく扉を開けた彼女は大きな声でそう言った。

走ってきたのだろうか、赤い顔でこちらを見る彼女とバチリと目が合った。

「あ……」

そんな彼女を見て、昨晚の努力もむなしく頭の中が真っ白になった。

「あ、あのね！ 話が終わったらね、わたしからも話したいことがあるんだけど！」

扉の前から一步も動かない彼女がこっちを見ないでそう言った。

「お、おう……」

慌ててそう返して、何故か彼女から目をそらす。

(言え！ 言え！ 俺！)

うるさい心臓をおさえて、視線を彼女に戻した。

再びバチリと目があったが、もう逸らさない。

勇気を振り絞って、口を開いた。

昔、あひじ。昔、あひじ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3506ba/>

この扉の向こうへ。（お題）

2012年1月9日01時52分発行